

特集 伝統を復活する力



今月の主な内容

- ・ 4月から国民健康保険制度が変わりました
- ・ 市長への手紙様式
- ・ 保育士就職支援研修会を開催
- ・ 市長からのメッセージ
- ・ 栗東再発見～山科毘沙門堂と栗東～

大宝神社の例大祭で奉納される「サンヤレ踊り」。3年前、83年振りに地元住民の力で現代によりがえりました。

揃いの法被姿で、太鼓、笛、踊りを担当するのは地域の子どもたち。「目出たいど さんやれ えい さんやれ さんやれ」といった音頭にあわせ、息の合ったリズムで祭りを彩ります。

※「近江祭百選」(<http://www.eonet.ne.jp/~oumimatsuri/>)で動画紹介中

4月1日の練習に参加した皆さん。
本番まで4回の練習を重ねます。
(上段左端が保存会副会長の西村久さん、真
ん中で笛を持つのが笛担当の林正英さん、
下段左が親子で参加し、太鼓担当の西村晋
治さん)

伝統を復活する力

市内各所で祭りが行われる5月。一度は途絶えた祭礼行事を復活させた地域があります。
前途多難だと言われながらも、復活を成し遂げた皆さん。二つの地域から、その原動力や
道のりを追います。

5月4日
大宝神社

サンヤレ踊り

地元に残る資料から
83年ぶりに祭りを復活

平成28年、83年ぶりに復活した
大宝神社の「サンヤレ踊り」。この
祭礼を現代によりみがえらせたのが、
笠川と市川原地域の皆さんです。

サンヤレ踊りは、五穀豊穡を願ひ
華やかな衣装で、囃子や歌に乗せる
踊り。室町時代に始まり栗東周辺で
も行われていましたが、大宝神社で
は、明治に入り途絶えます。大正4
年に復興されましたが、昭和7年に
再び途絶えてしまいました。

復活のきっかけは、西村久さん(保
存会副会長)が踊りに参加した女性
の歌を収めたカセットテープを譲り
受けたこと。西村さんは、滋賀レイ
カディア大学で地元・笠川の歴史を
調べていく過程で、「今、自分がし
なければ、将来復興されることはな
い。何とかサンヤレ踊りを地域の宝
として残したい」との思いを強くし、
有志を募ります。地域で踊りの歌詞
や太鼓と鉦の譜面も見つかったこと
も希望になりました。

平成27年5月、西村さんらは、7

人でサンヤレ踊り保存会を結成。12
月から住民説明会を4回開催して賛
同者を募りながら集まった資料をも
とに踊りを復元しました。子どもた
ちも太鼓や笛を担当し、多くの住民
の力で現代によりみがえりました。

一歩踏み出し、自ら歌つことで
高まった機運と一体感

西村さんは次のように語ります。
「当時、今年の復活は難しいとい
われましたが、今年できないのに、
来年できるはずがないとあきらめ
ませんでした。練習時、勇気を出
して一歩踏み出し、自らが歌うと、
返ってくる掛け声で何ともいえな
い一体感が生まれ、機運が高まっ
た気がします。」

住民説明会では、林正英さんがフ
ルートが吹けると名乗りでて笛を指
導してくれました。笠川・市川原自
治会は計約330世帯で、新しく転
入して来られた人も増えています。
多くの人材がいて、力を合わせたか
らこそ復活できました。踊りは住民
同士の交流にもつながっています。

①③④⑤昨年の踊り。1年目は栗東西中吹奏楽部の子どもたちのみが担当していた笛に、昨年から小学生も加わりました。笛担当は小学4年生以上というきまり以外は、男女関係なく、子どもたちの自主性に任せて担当を決めています②今年も本番に向けて練習中



1



2



3



4



5

83年の年月を経て、住民の力で復活。
残っていた資料と、地域の宝として残したいという熱い思い。

残された記録を頼りに復活



4

大宝神社のサンヤレ踊り



①昭和7年に奉納された記録②踊りの歌詞や太鼓と鉦の譜面が書かれた大正8年の記録「瑞穂」③昭和54年、当時89歳の女性が唄ったものを収めたカセットテープ④保存会副会長の西村久さんが③を譲り受け、踊りをよみがえらせようと有志を募るうち、地元の民家から②が見つかり、これらの記録からイメージを復元しました。

人と資金の循環を考えながら 地域を活性化

ここには、鎌倉時代には人が住んでいたといわれています。地域にまつてこんな踊りがあったことが伝わればと思います。今後もサンヤレ踊りを継続し、まちづくりに生かすことで、『住んでよかった』と思える地域にできれば。

4月1日、3年目となる今年も練習が重ねられていました。

「昨年は笛担当でしたが、友達のお兄ちゃんがやっていたのを見てかっこよくて、今年は太鼓に立候補しました」「笛は唇の形がポイント。高い音を出すのが難しいけど楽し

い。昔の人はこんな踊りを考えてすごいと思う」と語る子どもたち。太鼓担当で、初回から親子で参加する西村晋治さんは「記録が残っていない振り付けは、他地域のサンヤレ踊りを参考にみんなで創り上げました。子どもたちが中心になれるし、地域の活性化につながっています」と話してくださいました。

「子ども会や栗東西中学校の吹奏楽部にも協力してもらい、参加者を募る」「衣装は大人用・子ども用の2種類で経費をかけない」「寄付を募り、認知度を高め、応援者を増やす」など、人と資金が循環する仕組みづくりを考えながら、地域の宝になろうとするサンヤレ踊り。今年も揃いの法被をまとい、奉納されます。